

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	国語	科目：	現代の国語	単位数：	2	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	現代の国語（東京書籍）		副教材	常用漢字フォルダ（浜島書店）			
				三訂版 よむナビ現代文1 基礎編（いっずな書店）			

年間指導目標：
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。
論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考え言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化としての自覚をもち、

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学 期	中 間 考 査	単元名【視点を変える】 読む『木を見る、森を見る』 タイトルや具体例に注意して主張を捉え、物事を多様な視点から見る姿勢を養う。 読む『水の東西』 評論の型を理解し、評論の読み方を知る。	(知)	・言葉に、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。	○	○	○	○		12
			(思)	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて内容や構成、論理の展開などにおいて叙述を基に的確にとらえ、要旨や要点を把握している。	○	○		○		
			(態)	・粘り強く本文の要点を把握し、学習課題に沿って視点を変えてみることを理解し、自ら論点における課題を調べようとしている。		○	○	○	○	
1 学 期	期 末 考 査	単元名【言葉へのまなざし】 読む『「身銭」を切るコミュニケーション』 筆者独自の表現や具体例の働きに注意して読み、コミュニケーションの在り方について考える。 探求『発想を広げて課題を見つける』	(知)	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○	○	○	○		12
			(思)	「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開について評価したりするとともに、自分の考えを深めている。	○	○		○		

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	国語	科目：	言語文化	単位数：	2	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	精選 言語文化（第一学習社）		副教材	プレミアムカラー国語便覧（数研出版） これからの古典文法 改訂版（尚文出版）			

年間指導目標：

実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。

論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考え言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化としての自覚をもち、

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学 期	中 間 考 査	古文の学習 我が国の言語文化について理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。 説話『児のそら寝』 古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。	(知)	・言葉には、文化の継承、発展、想像を支える働きがあることを理解している。 ・古典を読むために必要な文語の決まりや古典特有の表現・時間の経過などによる言葉の変化について理解を深めている。	○	○	○	○		12
			(思)	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を理解している。 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを理解している。	○	○		○		
			(態)	・これからの学習に見通しを持って、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを継承していくことについて強く自覚をもとうとしている。 ・積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを共有している。		○	○	○	○	
1 学 期	期 末 考 査	小説『羅生門』 下人の行動や心理を基に場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 説話『なよ竹のかぐや姫』 古典特有の世界観に慣れるとともに、千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを知る。	(知)	・本文中に登場する主な常用漢字や語句・語彙、その文化的背景を理解している。 ・本文中に登場する、我が国の言語文化に特徴的な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○	○	○	○		12
			(思)	・作品の成立した背景やほかの作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○		○		
			(態)	・登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内容や展開を捉えようとしている。 ・初期仮名物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って伝奇性や心情描写の特色を促そうとしている。		○	○	○	○	

2 学 期	中 間 考 査	歌物語『伊勢物語』芥川 話の中で和歌が果たしている 役割をおさえ、歌物語の 特徴と読み解き方を理解する。 随筆『枕草子』中納言参り たまひて 自由に記述された随筆を読 んで、当時の人々の生活感 覚や興味の対象を知り、も のの見方・考え方を理解する。	(知)	・本文中に登場する、我が国の言語文化に特徴的 な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き 語彙を豊かにしている。 ・古典を読むために必要な文語の決まりや古典特 有の表現・時間の経過などによる言葉の変化につ いて理解を深めている。	○	○	○	○	16	
			(思)	・歌物語・随筆という文章の種類を踏まえて、内 容や展開を的確に捉え、作品の表れているものの 見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○		○		
			(態)	・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和 歌の果たす意味を捉えようとしている。 ・学習の見通しを持って随筆の様々な文体や取り 上げられた対象に触れ、進んで解釈を深めようと している。			○	○		○
2 学 期	期 末 考 査	小説『夢十夜』 「夢」という非日常性を 持った世界において、「自 分」は何を判断の根拠とし ているかを読み解く。 随筆『徒然草』丹波に出雲 といふ所あり 『枕草子』とは異なる思索 的な随筆を読んで、作者の 批判的精神が提示する事柄 を具体的に読み解く。	(知)	・本文中に登場する主な常用漢字や語句・語彙、 その文化的背景を理解している。 ・本文中に登場する、我が国の言語文化に特徴的 な語句・語彙の文化的背景を理解し、語感を磨き 語彙を豊かにしている。	○	○	○	○	16	
			(思)	・「夢」という非日常性を持った世界において、 「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解 いている。 ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開 を的確に捉え、作品の表れているものの見方や考 え方を捉え、内容を解釈している。	○	○		○		
			(態)	・登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内 容や展開を捉えようとしている。 ・本文中に現れた作者の批評・教訓・感動などを 積極的に読み取り、考えたことを伝え合おうとし ている。			○	○		○
3 学 期	学 年 末 考 査	漢文の学習 我が国の言語文化への理解 を深めるために、古典とし ての漢文を読むことの意義 を知る。 戦国策『狐借虎威』 文章の種類を踏まえてたと え話を読み解き、内容や展 開を的確に捉える。 小説『空き缶』 現在と過去とが交錯する文 章展開を把握し、各場面 における登場人物たちの思い を読み取る。	(知)	・本文中に登場する主な常用漢字や語句・語彙、 その文化的背景を理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国 の文化との関係について理解している。	○	○	○		22	
			(思)	・現在と過去とが交錯する文章展開を把握し、各 場面における登場人物たちの思いを読み取ってい る。 ・我が国の言語文化について理解を深めるため に、古典としての漢文を読むことに意義を理解し ている。	○	○				
			(態)	・登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内 容や展開を捉えようとしている。 ・これからの学習に見通しを持って、我が国の言 語文化に大きな影響を与えた漢文に興味・関心 を持っている。			○	○		
					合計	78				

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	地理歴史	科目：	歴史総合	単位数：	2	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	詳述歴史総合（実教出版）		副教材	新詳歴史総合			

年間指導目標：
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質、能力を育成することを目指す。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	近現代史の諸事象について、世界と日本を広く相互的な視座から俯瞰し、現代社会の諸課題に関わる近現代史に関する基本的な知識を複数の史・資料を活用し様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代史の変化に関わる事象の意味・意義・特色などを、時期・年代・推移・比較・相互の関連・現在とのつながりなどの項目に着目し、多面的・多角的に考察できるとともに、歴史にみられる課題把握と解決を視野に入れた構想力、考察・構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりする力が身に付いている。	近現代史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現に向け課題を主体的に追究・解決しようとする態度が身に付いており、多角的・多面的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の歴史や文化に対する愛着、他国や他国の文化を尊重することの大切さについてよく自覚している。

評価方法										
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度		
										配当 時数
観点	評価規準				a	b	c	d	e	
(知)	18世紀ころのアジアと欧米諸国の多様な関係や社会・文化、19世紀欧米諸国の産業革命や国民国家形成をきっかけとした世界経済の変化に関する基本的な知識を複数の史・資料を活用し理解できている。				○	○	○	○		12
(思)	18世紀ころのアジアと欧米諸国の多様な関係や社会・文化、19世紀欧米諸国の産業革命や国民国家形成をきっかけとした世界経済の変化に関する問いに対して歴史的なものの見方、考え方にに基づき考察し、根拠を基に判断・表現できている。				○	○	○		○	
(態)	18世紀ころのアジアと欧米諸国の多様な関係や社会・文化、19世紀欧米諸国の産業革命や国民国家形成をきっかけとした世界経済の変化に関する問いに対して自らの答えを出そうと努力し学習改善しようとしている。					○		○	○	
(知)	19世紀のロシアの様子とアメリカの発展、アジアや日本に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の対応に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し理解できている。				○	○	○	○		12
(思)	19世紀のロシアの様子とアメリカの発展、アジアや日本に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の対応に関する問いに対して歴史的なものの見方、考え方にに基づき考察し、根拠を基に判断・表現できている。				○	○	○		○	
(態)	19世紀のロシアの様子とアメリカの発展、アジアや日本に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の対応に関する問いに対して自らの答えを出そうと努力し学習改善しようとしている。					○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	第4章 帝国主義の時代 ・ 帝国主義と世界分割、 日清日露戦争と日本	(知)	帝国主義期における欧米諸国とアジア・アフリカの関係とアジアや日本での国民国家形成の動向、第一次世界大戦期における世界や日本の動向に関する基本的な知識を複数の史・資料を活用し理解できている。	○	○	○	○		16	
		【第2編 国際秩序の変化 や大衆化と私たち】 第5章 第一次世界大戦 と大衆社会 ・ 第一次世界大戦と日本	(思)	帝国主義期における欧米諸国とアジア・アフリカの関係とアジアや日本での国民国家形成の動向、第一次世界大戦期における世界や日本の動向に関する問いに対して歴史的なものの見方、考え方にに基づき考察し、根拠を基に判断・表現できている。	○	○	○		○		
		(態)	帝国主義期における欧米諸国とアジア・アフリカの関係とアジアや日本での国民国家形成の動向、第一次世界大戦期における世界や日本の動向に関する問いに対して自らの答えを出そうと努力し学習改善しようとしている。		○		○	○			
2 学 期	期 末 考 査	・ 大戦後の世界と民族運動、 社会運動の広がりと言 普通選挙	(知)	第一次世界大戦を経た国際関係の変化や戦後の各国の社会の形成、世界恐慌から第二次世界大戦に向かう日本や世界の動向に関する基本的な知識を複数の史・資料を活用し理解できている。	○	○	○	○		16	
		第6章 経済危機と第二 次世界大戦 ・ 世界恐慌からファシズムへ ・ 第二次世界大戦の惨禍	(思)	第一次世界大戦を経た国際関係の変化や戦後の各国の社会の形成、世界恐慌から第二次世界大戦に向かう日本や世界の動向に関する問いに対して、歴史的なものの見方、考え方にに基づき考察し、複数の根拠を基に判断・表現出来ている。	○	○	○		○		
		(態)	第一次世界大戦を経た国際関係の変化や戦後の各国の社会の形成、世界恐慌から第二次世界大戦に向かう日本や世界の動向に関する問いに対して自らの答えを出そうと努力し学習改善しようとしている。		○		○	○			
3 学 期	学 年 末 考 査	【第3編 グローバル化と私たち】 第7章 冷戦と脱植民地 化 ・ 冷戦と第三世界の出現、 高度成長と日本	(知)	第二次世界大戦を経た国際社会の変化、冷戦下から終結後の多極化、また民族紛争や地域紛争、グローバル化を経て現代社会が直面する諸問題に関する基本的な知識を史・資料を活用し理解できている。	○	○				22	
		第8章 多極化する世界 ・ 石油危機から冷戦の終結へ	(思)	第二次世界大戦を経た国際社会の変化、冷戦下から終結後の多極化、また民族紛争や地域紛争、グローバル化を経て現代社会が直面する諸問題に関する問いに対して歴史的なものの見方、考え方にに基づき考察し、根拠を基に判断・表現できている。	○	○		○	○		
		第9章 グローバル化と 現代社会 ・ 地域紛争とこれからの課題	(態)	第二次世界大戦を経た国際社会の変化、冷戦下から終結後の多極化、また民族紛争や地域紛争、グローバル化を経て現代社会が直面する諸問題に関する問いに対して自らの答えを出そうと努力し学習改善しようとしている。		○		○	○		
										合計	78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	数学	科目：	数学Ⅰ	単位数：	3	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	新編 数学Ⅰ（数研出版）	副教材	3TRIALⅠ＋A（数研出版）				

年間指導目標：

数学における概念や原理・原則を体系的に理解するとともに、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。

事象を数学的に考察したり表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにし、それらを活用する態度を育てる。

数学を用いた問題解決の過程を振り返って考察し、自己評価の基に改善しようとする態度を養う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・基本的な概念や原理・原則を体系的に理解する。 ・日常の諸問題を数学的な表現を用いて考察したり、数学的に解釈したりする力を身に着ける。 ・数学的な問題を的確に処理し、解決する。	・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する力を養う。 ・数学的な表現を用いて社会における量や事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	・数学の良さを認識し積極的に活用しようとする態度、困難な問題にあっても粘り強く解決しようとする態度を養う。 ・問題解決の過程や自己の学習過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式	(知)	基本的な多項式の演算、解法とその応用を理解し、方程式と不等式等における基礎的な知識を身に付けている。	○	○				18
			(思)	数の体系を実数まで拡張する意義に気付かせ、数の概念の理解を深める。 数と式、実数をを具体的な事象に関連した課題の解決に活用し、数学的に考察できる。	○	○		○		
			(態)	数と式、実数に関心をもち、問題解決のために主体的かつ意欲的に活用する。 事象を数学的にとらえることのよさを認識し、学習する理論を積極的に活用しようとする。		○		○	○	
1 学期	期 末 考 査	第3節 1次不等式 第2章 集合と命題	(知)	不等式の解の意味や不等式の性質および集合と命題に関する基本的な概念について理解する。	○	○				18
			(思)	不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、命題の条件や結論に着目し、命題に応じて対偶の利用や背理法の利用を適切に判断することで、命題を証明することができる。	○	○		○		
			(態)	具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式および集合と命題の概念度を活用したりする力を培う。		○		○	○	

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	数学	科目：	数学A	単位数：	2	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	新編 数学A（数研出版）	副教材	教科書傍用 3 TRIAL 数学Ⅰ＋A（数研出版）				

年間指導目標：

数学における概念や原理・原則を体系的に理解するとともに、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。

事象を数学的に考察したり表現する能力を培い、数学のよさを認識できるように、それらを活用する態度を育てる。

数学を用いた問題解決の過程を振り返って考察し、自己評価の基に改善しようとする能力を養う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法										配当 時数
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度		
観点	評価規準				a	b	c	d	e	12
(知)	集合について理解し、その要素を記号を使って書き表せ、その要素の個数を求めることができる。 場合の数をもれなくかつ重複なく数えることができる。				○	○				
(思)	ベン図を利用して集合を図示することで、集合の要素の個数を考察することができる。 場合の数を数える適切な方針を考察することができる。				○	○		○		
(態)	集合の要素の個数を求める方法に興味を示し、それを利用しようとする。 樹形図、和の法則や対称性による場合の数の数え方に興味をもつ。					○		○	○	
(知)	順列の総数、階乗、組合せの総数を記号で表し、それを活用できる。 順列、組合せに条件が付く場合に、条件の処理の仕方を理解している。				○	○				
(思)	条件が付く順列、組合せを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 組合せの総数を順列の総数をもとにして考察することができる。				○	○		○		12
(態)	順列と組合せの違いに興味・関心をもち、その総数を求めようとする。					○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	第2節 確率 ・事象と確率 ・確率の基本性質 ・独立な試行と確率	(知)	確率の意味、思考や事象の定義を理解している。 確率の基本性質を理解し、様々な事象・試行の確率の求め方がわかる。	○	○				16
			(思)	不確定な事象を、同様に確からしいという概念をもとに、数量的に捉えることができる。 既知の確率の知識を利用して、様々な試行の確率について考察することができる。	○	○		○		
			(態)	統計的確率と数学的確率の違いに興味・関心をもつ。 複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	・条件付き確率 ・期待値 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 ・三角形の辺の比 ・三角形の外心 ・内心・重心	(知)	条件付き確率を用いて確率の計算ができる。 期待値を求めることができる。 線分の内分・外分や、三角形の外心、内心、重心の基本事項を理解している。	○	○				16
			(思)	条件付き確率や期待値の考えを用いて考察することができる。 適切な補助線を引き、既習事項を用いて論理的に考察することができる。	○	○		○		
			(態)	日常の事象における不確実な事柄について、条件付き確率や期待値を用いて考察しようとする。 図形に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	・チェバの定理 ・メネラウスの定理 ・円に内接する四角形 ・円と直線 ・2つの円	(知)	チェバの定理、メネラウスの定理、円の基本的な性質を理解している。 方べきの定理を利用して、線分の長さなどを求めることができる。	○	○				22
			(思)	チェバの定理、メネラウスの定理、円の基本的な性質について論理的に考察することができる。 円や直線を動的にとらえ、それらの位置関係を考察することができる。	○	○				
			(態)	明らかに見える性質を、論理的に考察しようとする。 図解に関する様々な定理や性質について興味・関心をもつ。		○		○	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	理科	科目：	化学基礎	単位数：	2	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	高等学校 化学基礎（第一学習社）	副教材	新課程版 プロGRESS化学基礎【記入式演習】				

年間指導目標：

日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中間 考査	序章 化学と人間生活	(知) (思) (態)	・物質が混合物と純物質、および単体と化合物に分けられることを理解し、それらの違いを理解している。 ・粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係によって、状態が変化することを理解している。	○		○	○	○	12
		第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 ①物質の成分 ②物質の構成元素 ③状態変化と熱運動		・観察・実験を通して、混合物、純物質、単体、化合物について考察し、それぞれの特徴を説明できる。 ・粒子の熱運動と温度の関係や、粒子の熱運動と粒子間に働く力の関係をもとに、温度と物質の状態変化の関係を的確に表現することができる。	○		○	○	○	
				・物質に関心を持ち、物質の取り扱い方を理解しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。			○	○	○	
1 学期	期末 考査	第2節 原子の構造と元素の周期表 ①原子の構造 ②イオン ③元素の相互関係	(知) (思) (態)	・原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解し、知識を身に付けている。 ・原子の電子配置を理解し、原子番号20番までの代表的な典型元素について、簡単なモデルで表すことができる。 ・原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解している。 ・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオンの表し方やイオン化エネルギーについての知識を身に付けている。	○		○	○	○	12
				・原子の電子配置と周期表の族や周期との関係を理解し、周期性が現れる理由を的確に表現することができる。	○		○	○	○	
				・物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探究しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。			○	○	○	

2 学 期	中 間 考 査	第3節 化学結合 ①イオン結合 ②共有結合 ③金属結合 ④結晶の比較 ⑤結晶と単位格子	(知)	・イオン結合やイオン結合でできた物質の性質を理解し、知識を身に付けている。 ・共有結合を電子配置と関連付けて理解し、共有結合の表し方や配位結合についての知識も身に付けている。 ・電気陰性度や結合の極性を理解し、分子の極性についての知識を身に付けている。	○		○	○	○	16
			(思)	・イオン結晶の性質をイオンやイオン結合にもとづいて説明できる。 ・分子の極性を電気陰性度や結合の極性、分子の形をもとに総合的に判断できる。 ・金属結晶の性質を金属結合にもとづいて的確に表現できる。 ・物質の性質を調べる実験を通して、化学結合と結晶の性質の関係を考察できる。 ・観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。	○		○	○	○	
			(態)	・物質に関心を持ち、物質の取り扱い方を理解しようとする。 ・物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探究しようとする。 ・物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。			○	○	○	
2 学 期	期 末 考 査	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 ①原子量・分子量と式量 ②物質質量 ③溶解と濃度 ④化学変化と化学反応式 ⑤化学反応の量的関係 ⑥化学変化における諸法則	(知)	・物質の構成粒子の質量の表し方として、原子量・分子量・式量を理解している。 ・物質質量が粒子の数にもとづく量であることを理解し、物質質量と質量、気体の体積との関係も理解する。 ・水溶液の濃度を、モル濃度を用いて表したり、濃度のわかっている水溶液中の溶質の物質質量を計算によって求めることができる。 ・化学反応式を用いて化学変化を表すことができる。 ・物質質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。	○		○	○	○	16
			(思)	・化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを理解し、化学反応式をもとに物質の量的関係を判断できる。 ・実験で得られたデータをグラフ化するなどの処理を行い、結果を化学的に考察することができる。 ・化学反応の量的関係の実験から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。	○		○	○	○	
			(態)	・化学変化の量的関係を物質質量と関連付けて考察しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。			○	○	○	

3 学 期	学 年 末 考 査	第2節 酸と塩基の反応 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定 第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向 ⑤電池 ⑥金属の製錬 ⑦電気分解 終章 化学が拓く世界	・酸と塩基の定義や分類を理解し、酸と塩基を価数や強弱にもとづいて分類することができる。 ・水溶液の性質(酸性・中性・塩基性)と水素イオン濃度やpHとの関係を理解し、知識を身に付けている。 ・中和反応について理解し、塩のなりたちや塩の水溶液の性質を理解している。 ・中和反応に関与する物質の量的関係を理解し、中和反応における酸と塩基の量的関係を計算によって求めることができる。 ・中和滴定の操作や中和滴定曲線を理解し、実験器具の適切な取り扱いやグラフの見方などの知識を身に付けている。 ・酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付けている。 ・酸化還元反応を酸化数の増減によって判断することができる。 ・酸化剤、還元剤のはたらきを理解し、半反応式をもとに酸化還元反応を組み立てることができる。 ・酸化還元反応の量的関係を理解している。 ・金属のイオン化傾向や金属の反応性を理解し、知識を身に付けている。 ・酸化還元反応の利用例として、電池や電気分解などがあることを理解し、電池の構成などの基本的な知識を身に付けている。	○		○	○	○	22
		(思)	・酸・塩基の観察、実験から共通性を見だし、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察する。 ・中和滴定の実験を通して、それぞれの操作がどのような意味をもっているのかを理解し、実験結果に対してどのような影響があるかを考察できる。 ・代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見だし、自らの考えで表現できる。	○		○	○	○	
		(態)	・酸、塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連付けて、意欲的に探究しようとする。 ・酸と塩基の反応の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 ・燃焼、金属の溶解や腐食などの反応に興味をもち、電子の授受という観点から、それらを意欲的に探究しようとする。 ・酸化還元反応の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。			○	○	○	
				合計					78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画(シラバス)

教科・分野：	保健体育	科目：	体育	単位数：	2	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)	副教材					

年間指導目標：

中学校の体育活動を基に、運動能力と体力を高め、積極的に運動する基礎を造る。自分の能力・適正に応じて運動を合理的に実践し、生涯にわたって活用する運動の技術を身につけるとともに、自主的、かつ計画的に運動する基礎をつくる。スポーツを通じ、競技の意義を正しく理解し、公正な態度と協力し合う意識を養い、最大限の努力と協力をする習慣を身につける。

評価規準	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	オリエンテーション	(知)	【種目全般】技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。						12
		体づくり運動	(思)	【体育理論】運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。		○				
		体育理論	(態)	種目の技能などについて自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。			○	○		
1 学期	期 末 考 査	3種目3展開	(知)	運動に自主的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。					○	12
		①球技(サッカー)	(思)	【3種目3展開：球技(サッカー)】安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。		○				
		②球技(ソフトボール)	(態)	種目の技能などについて自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。			○	○		
1 学期	期 末 考 査	③球技(バスケットボール)	(知)	運動に自主的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。					○	12
		[上記のうち1種目実施]	(思)	種目の技能などについて自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。			○	○		
		水泳	(態)	運動に自主的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。					○	

2 学 期	中 間 考 査	水泳	3 種目 3 展開 ①球技(ソフトボール) ②球技(バスケットボール) ③球技(サッカー) [上記のうち 1 種目実施]	(知)	【水泳】複数の泳法で継続して泳ぐことができる。 【3 種目 3 展開：球技(ソフトボール)】安定したバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。		○				16
		(思)		種目の技能などについて自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。				○	○		
		(態)		運動に自主的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などをしたり、健康・安全を確保したりしている。					○		
2 学 期	期 末 考 査	3 種目 3 展開 ①球技(バスケットボール) ②球技(サッカー) ③球技(ソフトボール) [上記のうち 1 種目実施]	体育理論	(知)	【3 種目 3 展開：球技(バスケットボール)】安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。		○				16
		(思)		種目の技能などについて自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。				○	○		
		(態)		運動に自主的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などをしたり、健康・安全を確保したりしている。					○		
3 学 期	学 年 末 考 査	陸上競技(長距離走) 体づくり運動(なわとび)	体育理論	(知)	【長距離走】自己に適したペースを維持して走ることができる。 【なわとび】自己の課題に応じてさまざまな技について理解し、挑戦することができる。		○				22
		(思)		種目の技能などについて自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。				○	○		
		(態)		運動に自主的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などをしたり、健康・安全を確保したりしている。					○		
合計											78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画(シラバス)

教科・分野：	保健体育	科目：	保健	単位数：	1	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)	副教材					

年間指導目標：

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価規準	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配 当 時 数
1 学 期	中 間 考 査	現代社会と健康(1単元) 1.健康の考え方と成り立ち 2.私たちの健康のすがた 3.生活習慣病の予防と回復 4.がんの原因と予防 5.がんの治療と回復	(知)	健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。	○					6
			(思)	現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。			○	○		
			(態)	現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。					○	
1 学 期	期 末 考 査	現代社会と健康(1単元) 6.運動と健康 7.食事と健康 8.休養・睡眠と健康 9.喫煙と健康 10.飲酒と健康 11.薬物乱用と健康	(知)	喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解している。	○					6
			(思)	現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。			○	○		
			(態)	現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。					○	

2 学 期	中 間 考 査	現代社会と健康(1単元) 12.精神疾患の特徴 13.精神疾患の予防 14.精神疾患からの回復	(知)	精神疾患の予防と回復には、心身の不調に気付くことが重要であることや疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることなどを理解している。	○					8	
			(思)	現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。				○	○		
			(態)	現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。							○
2 学 期	期 末 考 査	現代社会と健康(1単元) 15.現代の感染症 16.感染症の予防 17.性感染症・エイズとその予防 18.健康に関する意思決定・行動選択 19.健康に関する環境づくり	(知)	感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。	○					8	
			(思)	現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。				○	○		
			(態)	現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。							○
3 学 期	学 年 末 考 査	安全な社会生活(2単元) 1.事故の現状と発生要因 2.安全な社会の形成 3.交通における安全 4.応急手当の意義とその基本 5.日常的な応急手当 6.心肺蘇生法	(知)	安全な社会づくりや交通事故防止に関することや応急手当の手順や方法、速やかに行う必要があることなどを理解し、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身に付けている。	○					11	
			(思)	安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。				○			
			(態)	安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。					○		○
合計										39	

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	芸術	科目：	音楽Ⅰ	単位数：	2	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	Tutti+ 教育出版社	副教材	自主教材				

年間指導目標：
・読譜能力の向上と応用 ・グループ実習により互いを尊重し高めあい、協力する力を培う。
・我が国の伝統的楽器を演習することにより、日本の文化に興味関心を持てるようにする。
・歌唱表現や楽器を通して自主性や表現力を養う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・曲想と音楽の構造を理解し、音楽表現に必要な技能を習得する。	・音楽に必要な表現を身に付け、意図を理解する。	・音楽を通して、その音楽文化や曲想について真剣に取り組む。

評価方法										
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度		配当 時数
観点	評価規準	a	b	c	d	e				
(知)	・曲想と音楽の構造を理解し、音楽表現に必要な技能を習得する。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け歌唱で表している。		○	※	※	○	12			
(思)	・音楽に必要な音色、リズム、旋律、強弱などの表現を身に付け、意図を理解する。		○	※	※	○				
(態)	・音楽を通して、その音楽文化や曲想について真剣に取り組む。・イタリア語の言葉の特性や曲にふさわしい発音で表情豊かに歌うことに関心を持ち学習に取り組む。		○	※	※	○				
(知)	・曲想と音楽の構造を理解し、音楽表現に必要な技能を習得する。		○	※	※	○	12			
(思)	・音楽に必要な音色、リズム、フレーズ、強弱などの表現を身に付け、意図を理解する。		○	※	※	○				
(態)	・音楽を通して、その音楽文化や曲想について真剣に取り組む。		○	※	※	○				

2 学 期	中 間 考 査	・発声、呼吸法 ・ソルフージュ ・ギター奏法研究	(知)	・曲想と楽器の音色、音楽の構造と奏法を理解し、音楽表現に必要な技能を習得する。		○	※	※	○	16
			(思)	・音楽に必要な音色、リズム、旋律、強弱などの表現を身に付け、意図を理解する。		○	※	※	○	
			(態)	・音楽を通して、その音楽文化や曲想について真剣に取り組む。 ・ギターの奏法を身に付けることや音楽表現を創意工夫しながら演奏することに関心を持つ。		○	※	※	○	
2 学 期	期 末 考 査	・歌唱 ・合唱 ・楽語	(知)	・曲想と音楽の構造を理解し、音楽表現に必要な技能を習得する。 ・日本語の言葉の特性と曲種に応じた発声を理解する。		○	※	※	○	16
			(思)	・音楽に必要な音色、リズム、旋律、音程、強弱などの表現を身に付け、意図を理解する。		○	※	※	○	
			(態)	・音楽を通して、その音楽文化や曲想について真剣に取り組む。 ・曲にふさわしい発声を意識し、自己のイメージを持って創意工夫することに関心を持つ。		○	※	※	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	・様々なジャンルの音楽 ・グループ実習 ・ソルフージュ ・楽語	(知)	・曲想と音楽の構造を理解し、音楽表現に必要な技能を習得する。 ・反復、変化などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付け表している。		○	※	※	○	22
			(思)	・音楽に必要な音色、リズム、旋律、強弱などの表現を身に付け、意図を理解する。		○	※	※	○	
			(態)	・音楽を通して、その音楽文化や曲想について真剣に取り組む。 ・奏法を身に付けることや音楽表現を工夫しながらアンサンブル活動することに関心を持つ。		○	※	※	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	芸術	科目：	美術Ⅰ	単位数：	2	指導学年：	1（AB）
担当教諭：							
使用教科書	「高校美術Ⅰ」 日本文教出版		副教材	自主教材・参考作品			

年間指導目標：
・美術の創造活動を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や文化と幅広く関わる姿勢や能力を育成することを目標とする。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り組む。

評価方法										
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度		配当 時数
観点	評価規準	a	b	c	d	e				
(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	12			
(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。		○	※	※	○				
(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り組む。		○	※	※	○				
(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	12			
(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。		○	※	※	○				
(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り組む。		○	※	※	○				

2 学 期	中 間 考 査	・鑑賞 絵画「油彩模写」の導入と なる鑑賞を行う。 ・絵画「油彩模写」 レオナルド・ダ・ヴィンチ の作品「白貂を抱く貴婦 人」を模写する。 絵画（油彩）の基礎的な表 現技法について学ぶ。	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を 深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	16
			(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはた らかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。		○	※	※	○	
2 学 期	期 末 考 査	・絵画「油彩模写」 レオナルド・ダ・ヴィンチ の作品「白貂を抱く貴婦 人」を模写する。 絵画（油彩）の基礎的な表 現技法について学ぶ。 ・鑑賞 映像メディアに関する内容 の鑑賞を行う。	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を 深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	16
			(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはた らかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。		○	※	※	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	・デザイン（構成デッサ ン） 意図やねらいを考えて任意 のモチーフを構成しデッサ ンを行う。 ・素描「自画像」 人体の構造について理解を 深める。	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を 深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	22
			(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはた らかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。		○	※	※	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	芸術	科目：	美術Ⅰ	単位数：	2	指導学年：	1（C-F）
担当教諭：							
使用教科書	「高校美術Ⅰ」 日本文教出版		副教材	自主教材・参考作品			

年間指導目標：
・美術の創造活動を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や文化と幅広く関わる姿勢や能力を育成することを目標とする。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り組む。

評価方法										
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度		
										配当 時数
観点	評価規準				a	b	c	d	e	
(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。					○	※	※	○	12
(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。					○	※	※	○	
(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り組む。					○	※	※	○	
(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。					○	※	※	○	12
(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。					○	※	※	○	
(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り組む。					○	※	※	○	

2 学 期	中 間 考 査	・鑑賞 彫刻「サザエの塑像」の導 入となる鑑賞を行う。 ・素描「サザエ」 サザエの構造を理解する。	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を 深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	16
			(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはた らかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。		○	※	※	○	
2 学 期	期 末 考 査	・彫刻「サザエの塑像」 彫刻の基礎的な表現技法に ついて学び、塑像を行う。 また、色彩の基本について 学び着彩を行う。 ・鑑賞 映像メディアに関する内容 の鑑賞を行う。	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を 深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	16
			(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはた らかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。		○	※	※	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	・デザイン（構成デッサ ン） 意図やねらいを考えて任意 のモチーフを構成しデッサ ンを行う。 ・素描「自画像」 人体の構造について理解を 深める。	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を 深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	22
			(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはた らかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り 組む。		○	※	※	○	
合計										78